

利用自己申告あり\*レセプトあり、city4と6のみに絞って  
入院・外来別、給付率別、自己申告とレセプト情報の比較

\* 外来

-----+-----  
レセプト発生者数  
自己申告数  
レセプト推計自己負担額（年間）  
自己申告負担額（年間）  
-----

外来全例

-----+-----  
| 403  
| 314  
| 97302  
108854

外来給付率7割のもの

-----+-----  
| 263  
| 190  
| 123704  
142181

外来給付率8割のもの

-----+-----  
| 15  
| 12  
| 83441  
105673

外来給付率9割のもの

-----+-----  
| 112  
| 94  
| 38176  
45696

./ \* 人数はアンダー、額はオーバーだが給付率ごとに差別はされていて比較的両者の一致は悪くないおそらく定期受診、という条件をつけたことが人数がアンダーになった理由か\*/

\*入院

-----+-----  
レセプト発生者数  
自己申告数  
レセプト推計自己負担額（年間）  
自己申告負担額（年間）  
-----

入院全例

-----+-----  
| 49  
| 55  
| 227757  
186124

入院給付率 7 割のもの

-----+-----  
| 32  
| 36  
| 283077  
233551

入院給付率 8 割のもの

-----+-----  
| 2  
| 2  
| 38547  
108000

入院給付率 9 割のもの

-----+-----  
| 11  
| 16  
| 108193  
94563

./ \* 人数はオーバー、額がアンダー、給付率 8 割は人数が少ないのでわからないが、少なくとも 7. 9 割の差別はついている\*/

利用自己申告あり\*レセプトあり、city4と6のみに絞って  
 入院・外来別、年齢層性別、給付率別 自己申告とレセプト情報の比較

\*外来全例

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担(年間)	自己申告 自己負担(年間)
50代男性	33	25	96142	117368
50代女性	41	25	179914	145840
60代男性	82	65	91128	109265
60代女性	108	83	139038	164497
70代男性	71	58	43024	54655
70代女性	67	57	45079	61760

外来給付率7割のもの

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担(年間)	自己申告 自己負担(年間)
50代男性	32	23	97623	122617
50代女性	41	25	179914	145840
60代男性	76	57	90802	109611
60代女性	102	77	139586	173656
70代男性	8	5	60196	151440
70代女性	3	2	104501	55800

外来給付率8割のもの

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担(年間)	自己申告 自己負担(年間)
60代男性	1	1	77936	86400
60代女性	1	1	65836	96000
70代男性	4	4	98962	22980
70代女性	9	6	79110	177616

外来給付率9割のもの

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担(年間)	自己申告 自己負担(年間)
50代男性	1	1	48750	42000
60代男性	1	1	19308	72000
60代女性	4	3	151944	37920
70代男性	56	45	35677	50463
70代女性	50	44	32040	40724

・ 入院全例

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担（年間）	自己申告 自己負担（年間）
50代男性	6	8	484718	456250
50代女性	4	4	130321	62000
60代男性	12	11	254886	144182
60代女性	15	16	234741	191864
70代男性	12	13	95895	100231
70代女性	0	3		126667

入院給付率7割のもの

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担（年間）	自己申告 自己負担（年間）
50代男性	5	7	581662	500000
50代女性	4	4	130321	62000
60代男性	10	10	263457	148600
60代女性	11	14	258042	215988
70代男性	2	1	77925	150000
70代女性	0	0		

入院給付率8割のもの

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担（年間）	自己申告 自己負担（年間）
60代男性	0	0		
60代女性	1	1	67791	16000
70代男性	1	0	9303	
70代女性	0	1		200000

入院給付率9割のもの

年齢性別	レセプト報告数	自己申告報告数	レセプト推計 自己負担（年間）	自己申告 自己負担（年間）
50代男性	1	1	0	150000
60代男性	0	0		
60代女性	2	1	107835	30000
70代男性	8	12	121807	96083
70代女性	0	2		90000

利用自己申告あり\*レセプトあり、City4と6のみに絞って  
自己申告とレセプト情報の一致・不一致と対象者属性について

外来利用の有無の申告・レセプト一致の状況

年齢	不一致	一致	
50'	24	75	99
	24.24	75.76	100.00
60'	44	188	232
	18.97	81.03	100.00
70'	14	137	151
	9.27	90.73	100.00
Total	82	400	482
	17.01	82.99	100.00

Pearson chi2(2) = 10.7012 Pr = 0.005

若年層で利用有無の不一致が多い（若年では定期受診が少ないから？）

性別	不一致	一致	
Male	51	186	237
	21.52	78.48	100.00
Female	31	214	245
	12.65	87.35	100.00
Total	82	400	482
	17.01	82.99	100.00

Pearson chi2(1) = 6.7071 Pr = 0.010

男性のほうで利用有無の不一致が多い

都市	不一致	一致	
4	39	158	197
	19.80	80.20	100.00
6	43	243	286
	15.03	84.97	100.00
Total	82	401	483
	16.98	83.02	100.00

Pearson chi2(1) = 1.8767 Pr = 0.171

2都市で特に違いは見られない

外来利用の有無の申告・レセプト一致の状況

学歴	不一致	一致	
高卒以上	50	221	271
	18.45	81.55	100.00
高卒未満	32	177	209
	15.31	84.69	100.00
Total	82	398	480
	17.08	82.92	100.00

Pearson chi2(1) = 0.8209 Pr = 0.365

学歴による違いは見られない。

世帯等価所得	不一致	一致	
中央値以上	31	134	165
	18.79	81.21	100.00
中央値未満	40	215	255
	15.69	84.31	100.00
Total	71	349	420
	16.90	83.10	100.00

Pearson chi2(1) = 0.6861 Pr = 0.408

世帯等価所得による違いは見られない

CESD>=16	不一致	一致	
16 未満	66	315	381
	17.32	82.68	100.00
16 以上	11	66	77
	14.29	85.71	100.00
Total	77	381	458
	16.81	83.19	100.00

Pearson chi2(1) = 0.4225 Pr = 0.516

うつ状態による違いは見られない

外来利用の有無の申告・レセプト一致の状況 (続き)

自覚的健康状態	不一致	一致	
よい	43 21.83	154 78.17	197 100.00
わるい	39 13.64	247 86.36	286 100.00
Total	82 16.98	401 83.02	483 100.00

Pearson chi2(1) = 5.5526 Pr = 0.018

自覚的健康状態がよいと不一致の傾向 (定期受診が少ないから?)

計算能力	不一致	一致	
0	7 50.00	7 50.00	14 100.00
1	42 17.65	196 82.35	238 100.00
2	18 13.53	115 86.47	133 100.00
3	7 11.86	52 88.14	59 100.00
Total	74 16.67	370 83.33	444 100.00

Pearson chi2(3) = 13.2842 Pr = 0.004

計算能力が低いほど不一致が多い

想起力	不一致	一致	
0	67 16.79	332 83.21	399 100.00
1	7 13.73	44 86.27	51 100.00
Total	74 16.44	376 83.56	450 100.00

Pearson chi2(1) = 0.3095 Pr = 0.578

単語想起能力 (10個の単語を思い出す) は特に違いなし



外来利用自己負担額の自己申告・レセプト一致の状況

アウトカム=自己申告負担額-レセプト推計自己負担額

年齢

50 s	-52669.125
60 s	1293.9717
70 s	12281.765
Total	-3340.6478

Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	1.4966e+11	2	7.4830e+10	0.90	0.4061
Within groups	2.5000e+13	302	8.2780e+10		
Total	2.5149e+13	304	8.2728e+10		

年齢が若いほど過小申告、年齢が高いほど過剰申告、有意差なし

性別

Male	6769.234
Female	-12264.803
Total	-3340.6478

Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	2.7518e+10	1	2.7518e+10	0.33	0.5650
Within groups	2.5122e+13	303	8.2910e+10		
Total	2.5149e+13	304	8.2728e+10		

女性で過少申告、有意差なし

都市

4	-56856.194
6	32428.843
Total	-3460.2404

Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	5.8640e+11	1	5.8640e+11	7.26	0.0075
Within groups	2.4564e+13	304	8.0803e+10		
Total	2.5151e+13	305	8.2461e+10		

都市差は有意（都市4では過小、都市6では過剰申告）

学歴

高卒以上	14779.289
高卒未満	-23554.776
Total	-3378.9526

Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	1.1137e+11	1	1.1137e+11	1.34	0.2474
Within groups	2.5038e+13	302	8.2906e+10		
Total	2.5149e+13	303	8.3000e+10		

低学歴で過小申告、ただし有意差なし

世帯等価所得

中央値以上	-32278.784
中央値未満	12328.52
Total	-4879.5409

Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	1.2589e+11	1	1.2589e+11	1.39	0.2387
Within groups	2.3927e+13	265	9.0291e+10		
Total	2.4053e+13	266	9.0425e+10		

等価所得が低いもので過剰申告、ただし有意差なし

CESD>=16	Mean
0	5821.0187
1	-10658.607
Total	2695.5724

Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	1.2104e+10	1	1.2104e+10	0.16	0.6929
Within groups	2.2313e+13	288	7.7475e+10		
Total	2.2325e+13	289	7.7249e+10		

うつ傾向のもので過小申告、ただし有意差なし

### 自覚的健康状態

よい	-14525.753
わるい	2489.5577
-----+	
Total	-3460.2404

Source	Analysis of Variance			F	Prob > F
	SS	df	MS		
Between groups	2.0146e+10	1	2.0146e+10	0.24	0.6219
Within groups	2.5130e+13	304	8.2666e+10		
-----+					
Total	2.5151e+13	305	8.2461e+10		

自覚的健康状態のよいもので過小申告、有意差なし

### 計算能力

0	-3412.0332
1	-19645.778
2	-2352.3338
3	7323.8885
-----+	
Total	-10141.513

Source	Analysis of Variance			F	Prob > F
	SS	df	MS		
Between groups	3.0207e+10	3	1.0069e+10	0.12	0.9479
Within groups	2.2953e+13	275	8.3467e+10		
-----+					
Total	2.2984e+13	278	8.2675e+10		

計算能力の低いもので過小申告、有意差なし

### 単語想起能力

0	-10775.205
1	-12316.876
-----+	
Total	-10959.771

Source	Analysis of Variance			F	Prob > F
	SS	df	MS		
Between groups	71135064.5	1	71135064.5	0.00	0.9765
Within groups	2.3014e+13	282	8.1609e+10		
-----+					
Total	2.3014e+13	283	8.1321e+10		

単語想起能力については特に差を認めない

給付率

7	-8109.5356
8	4343.1997
9	4375.5418
Total	-3460.2404

Analysis of Variance					
Source	SS	df	MS	F	Prob > F
Between groups	1.1140e+10	2	5.5701e+09	0.07	0.9351
Within groups	2.5139e+13	303	8.2968e+10		
Total	2.5151e+13	305	8.2461e+10		

給付率についても差は認めないが

Source	SS	df	MS	Number of obs = 266	
Model	1.4461e+12	9	1.6068e+11	F( 9, 256) =	1.82
Residual	2.2607e+13	256	8.8308e+10	Prob > F =	0.0651
Total	2.4053e+13	265	9.0766e+10	R-squared =	0.0601
				Adj R-squared =	0.0271
				Root MSE =	3.0e+05

outpt_ppo_-f	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
__Icage_70	103316.7	54883.83	1.88	0.061	-4764.588	211398
__Icage_75	152321.6	91089.77	1.67	0.096	-27059.11	331702.3
__Isex_1	-19818.15	36762.08	-0.54	0.590	-92212.75	52576.46
__Icity_3	(dropped)					
__Icity_4	-115021.1	38333.6	-3.00	0.003	-190510.5	-39531.73
__Icity_5	(dropped)					
__Icity_6	(dropped)					
__ISPhealth-1	17977.17	39839.59	0.45	0.652	-60477.9	96432.23
__ID_educ_1	-59982.36	38340.57	-1.56	0.119	-135485.4	15520.73
__ID_equiI_1	48720.17	38492.11	1.27	0.207	-27081.34	124521.7
__Iround_ky-8	-30743.96	99036.38	-0.31	0.756	-225773.7	164285.8
__Iround_ky-9	-21679.11	82188.98	-0.26	0.792	-183531.7	140173.5
__cons	-58869.67	58530.36	-1.01	0.315	-174132	56392.64

都市差以外は有意に至らず。  
 高齢者で過剰申告 (p=0.096)、低学歴で過小申告 (0=0.119) の傾向

平成 20 年度厚生労働科学研究補助金（長寿総合科学総合 研究事業）分担研究報告書  
社会経済的格差と高齢者の健康、生活習慣、医療介護資源利用に関する検討  
(H19-長寿-一般-017)

健康状態・世帯所得・学歴と医療給付の関連についての検討

報告者（分担研究者）

近藤克則	日本福祉大学福祉学部
橋本英樹	東京大学大学院医学系研究科 臨床疫学・経済学分野
研究協力者	
市村英彦	東京大学大学院経済学系研究科 教授
清水谷諭	（財）世界平和研究所 主任研究員

抄録

「暮らしと健康」調査（清水谷・市村ら）の対象者フレームを利用して（5市町村在住の55歳以上74歳までの中高齢者4112名）、初年度研究では社会経済的要因と身体・精神機能・自覚的健康状態などとの関係を検討した。今年度は、客観的情報として、調査地点自治体の協力により得られた国民健康保険医療給付情報を用いて、医療受給の有無や額と、学歴・世帯所得などの社会経済的要因や罹患疾病の状況などとの関係を横断的に検討した

入院診療受療は高齢者・女性で低い傾向があるが有意にはいたらなかった。心臓病・脳卒中・悪性腫瘍・糖尿病の罹患患者で有意に高かった。入院受療実績があるもののなかで見ると、高齢者では有意に年間入院診療費が低く、脳卒中罹患患者で有意に高かった。受療オッズ・年間入院診療費とも学歴・所得による有意差は見られなかった。一方外来診療の受療では高齢者・女性でオッズが高く、高血圧・高脂血症・糖尿病・関節疾患罹患患者で有意に高かった。なお予想に反して給付率による違いは認められず、世帯所得・学歴による差も有意ではなかった。年間外来診療費については、高齢者ほど低く、女性・給付率が9割のもので高く、脳心血管疾患ならびに糖尿病で有意に高かった。

今回の検討では、3市町村に限られていること、国保加入者であること、横断的調査であることなどの制限があることから、結果の解釈については慎重さが要求される。次年度に向けて、さらに3市町村の情報を追加し、サンプル数を大きくするとともに、2年後追跡結果を合わせた縦断的検討に進めることが必要である。

## 【A. 目的】

所得格差の拡大による健康格差の拡大について、マスメディア・市民の関心は高まり、政策的にも重要課題とされているが、その実情について明らかにするためのデータは、これまでのところ限られている。「暮らしと健康」調査では、世帯の構成員・所得・消費・資産などの情報に加えて、昨年度の本研究事業を通じて健康・機能・生活習慣に関するデータが得られており、社会経済的要因と健康の関係を包括的に検討するための横断的情報が入手された。昨年度研究では、これをもとに、自覚的健康状態・機能・メンタルヘルスなどについて、年齢性別などの人口学的情報に加え、所得・就労・学歴・資産などの社会経済的状況による差が見られるかを横断的に検討した。その結果、健康状態や認知機能、身体機能、メンタルヘルスの状況について、学歴や所得による差を確認することができた。本年度は同じサンプルフレームを利用し、医療資源の利用状況について検討することとした。そのため、調査面接中に得られた自己申告（入院・外来診療受療の有無と自己負担額の年間総計）に加え、より客観的な情報として、国民健康保険加入者について公的保険による医療給付情報を入手し、これを分析したので、以下に報告する。

## 【B. 方法】

### 1. データソース

野口・橋本の分担報告に詳細を記す。今回の分析にあたっては、入院・外来別の医療給付情報が得られている、都市番号 4,5,6 について解析した。

### 2. 分析方法

年齢層を 50 代（55-59）、60 代（60-69）、70 代（70-74）に区分した。自覚的健康状態は 5 段階で尋ねたものについて、下位 3 つを併せて「自覚的健康状態不良」とし、2 値変数とした。所得については世帯等価所得について、全サンプルの中央値以上か未満かで、2 値変数とした。教育についても義務教育より高いか以下かで 2 値変数とした。疾病罹患の有無については、自己申告に従い、それぞれある・ないの 2 値変数とした。

入院・外来それぞれについて、過去 1 年間の受療の有無を多変量ロジスティック回帰で検討した。またそれぞれ診療実績が給付情報上で確認できたものについて、給付情報に基づき、1 年間の診療総給付額を目的変数とし、各属性ごとに分布を調べたのち、最終的に線形回帰分析を実施した。

## 【C. 結果】

以下の結果については補足資料に結果表を掲載する。

### 1) 入院診療（年間）と関連因子

N=979 について検討した。これは 3 都市の国民健康保険加入者（1435 人）の給付情報参照の承諾が得られた 1,142 名の 86% に相当する。

年齢・性別・都市別に有意な違いは見られなかったが、傾向として高齢者ほど入院診療受療のオッズは低かった。自覚的健康状態が不良なものでは、そうでないものと比べて、約 4 倍、入院診療を受療したと回答していた。一方、世帯所得・学歴による違いは有意にはいならなかったが、学歴については低学歴者で受療オッズが低い傾向がうかがわれた。疾病罹患の状況について

は、心臓病・脳卒中、悪性腫瘍の罹患を自己申告しているケースで有意に入院受療のオッズが高かった。

次に入院診療実績が給付情報で確認された85人について、属性別の年間入院診療費の比較を行った。都市別では都市番号4で突出した入院診療費利用が見られた。年齢性別で見ると、若年層で高額な入院診療費が観察され、年齢とともに低下する傾向が見られた。自覚的健康状態では有意な差は認められなかった。給付率によっても有意差は見られなかったが、9割給付例ではばらつきが大きく認められた。

世帯等価所得・学歴によっても際立った違いはなく、予想されたような低所得・低学歴で利用額が少ない、という傾向は見られなかった。

各種疾患の罹患状況との関係では、罹患が報告されているもののほうで、それ以外のものよりも高い入院診療費が総じて見られたが、特に脳卒中と糖尿病、白内障、悪性腫瘍などについては、罹患者と非罹患者と大きな差が認められた。またこれらの罹患疾患数の併存数と年間入院診療費には明らかな相関は見られなかった。

年間入院診療費の説明モデルを線形回帰分析で行った。症例数が72と少ないため安定した推計を得ることは困難であったが、高齢者ほど少なく、自覚的健康状態が不良のもので高く、脳卒中罹患で高い傾向はほぼ確認された。なお所得については低所得層で、学歴については高学歴者で年間診療費が低い傾向がうかがわれたが、いずれも統計的には有意ではなかった。

## 2) 外来診療（年間）と関連因子

外来診療についても同様の分析を繰り返した。年齢については入院診療とは逆に、年齢が高いもので外来診療受療のオッズが有意に高かった。また女性で外来診療の受療オッズが高かった。都市別では都市番号4に比較して5、6では外来診療受療のオッズが高く、これも入院診療と逆のパターンとなった。これは都市番号4では、周辺に外来診療を担う診療所などの施設が少なく、隣接市町村の大型医療施設が主な医療サービス提供機関となっていることなどが反映されたと考えられた。

また自覚的健康状態が不良のもので受療オッズが高いのは入院と変わらないが、罹患疾患についてみると、高血圧、高脂血症、糖尿病、関節疾患など、高齢者に見られる日常診療対象となる疾患で有意に高い受療オッズが確認された。なお給付率の影響を追加的に検討したが、有意な関係を見ることはできず、むしろ給付率7割に比較して、点推定としては1以下のオッズが給付率8,9割で見られた。

次に給付情報で外来診療給付実績が確認された917名について、年間外来診療費と各種特性の関係を検討した。統計的には有意にはいたらないが、年齢層が高くなるにつれて、外来診療受療のオッズは高くなっていた。また女性では男性の1.5倍の受療オッズが見られた。都市4に比べて都市5、6では外来受療オッズが2.5倍高く、入院診療とはまったく正反対の関係が見られた。これは地域による外来診療への物理的アクセスの違いが反映されていると思われる。すなわち都市4では5、6に比べて近隣の診療所クラスの施設が少なく、隣接市町村の大型医療施設が主たる医療提供施設とな

っていることから、外来にはかかりにくく、ひとたび健康上の問題が発生すると、入院診療が選択されやすいのであろう。

外来診療受療のオッズに、給付率は有意な関連を示さなかった。当然ながら診療受療のオッズは自覚的健康状態が不良のものに高かった。疾患別には、入院では心臓病・脳卒中・悪性腫瘍が受療オッズと関連していたのに対して、外来診療では、高血圧・高脂血症・糖尿病・白内障・関節疾患などで有意に受療オッズが高く、外来と入院のケースミックスのパターンに違いがあることと対応していた。

次に外来診療実績のある917人について年間外来診療費を属性別に比較した結果を示す。中央値で見ると年齢層が上がるほど年間外来診療費が高くなる傾向が見られた。学歴では差は見られず、世帯等価所得では中央値未満のもので、やや高い傾向が見られた。一方給付率については、7割のものに比べて9割では年間外来受療費が高かった。疾患別では心臓病・高血圧・高脂血症・脳卒中など脳心血管ならびに関連疾患で外来診療費が高い傾向が見られた。多変量解析で見ると、高齢者・男性で有意に診療費が低く、一方、都市4、給付率9割、脳心血管疾患ならびに関連疾患の罹患者で有意に高い年間外来診療費が認められた。

#### 【D. 考察】

今回の検討は横断的検討であるため、因果関係については、方向性が定まらない。年齢や性別については、入院外来別に受療確率と受療額に分けて検討したところ、ほぼ既存の内外の調査と一致した結果が得られている。受療確率についてはニーズの影

響を、また受療額についてはサービス提供者の側での選択的なサービス提供の影響が反映されていると思われる。特に給付率については、入院の受療確率や給付費総額、外来の受療確率に影響せず、外来の受療費総額にのみ正の関係が見られたことは、受療者側のモラルハザードと、供給者側の誘発需要があいまった結果を見ている可能性がある。

一方今回の検討では、世帯所得や学歴などの社会経済的要因による受療抑制や資源利用の差し控えなどを示唆する結果は得られなかった。ただし傾向としては低所得者で入院・外来とも年間受療費は低く、義務教育以下のもので入院・外来とも年間受療オッズが低い傾向が見られている。次年度にさらに3市町村のサンプルが追加される見込みであることから、今後サンプル数を増やした場合に、これらがどのように変化するか、注目しておく必要がある。

本研究の限界として対象者は国民健康保険加入者に限られていることから、所得・学歴の層が限られているために、その影響を抽出しにくくなっている可能性があることは踏まえておかななくてはならない。特に若年層では国保対象者と被用者保険対象者では社会経済的状況が大きく異なることから、引退後の高齢層にしばって結果を解釈したほうが安全かもしれない。また第2の大きな限界として、現時点では初回調査時の横断的検討に留まっていることは言うまでもない。次年度研究では、2年後の追跡調査データが入手できることから、縦断的データを利用して、さらに解析を進めることで、社会経済的要因・健康や機能状態と医療・介護資源の利用パターンの相互的関

係について考察を深める必要がある。

#### 【E. 結論】

医療給付情報から得られた年間の入院・外来医療の受給状況、その給付額と関連する人口学的・健康・社会経済的要因について、横断的な検討を加えた。年齢・性などニーズに関連する要因、地域性など物理的アクセスに関連する要因、さらに給付率のように需要供給均衡に関係する要因と、それぞれ有意な関係を見ることができた。一方現時点のサンプル数・横断的検討では、懸念されていた所得・学歴などの社会経済的要因による差は認められなかった。サンプルが国保加入者に限られていることを考慮しつつも、今後サンプル数を増やし、低学歴での受療を控える傾向や低所得者での受療費が低い傾向などが有意に観察されるかどうか、次年度以降も検討を続けていく必要があると思われた。

本分析を進めるにあたり、データの初期整理を行ってくれた濱秋純哉氏（東京大学大学院経済学専攻 博士課程）の尽力に感謝申し上げます

#### 【F. 研究発表】

平成 21 年 3 月現在未発表

#### 【G. 知的所有権の取得状況】

該当なし

. \*\*\*\*\*

. \*report 2 疾患別+収入・学歴別の給付情報データ分析結果

. \*\*\*\*\*

. \*条件

3 都市〔都市 4, 5, 6〕で調査対象（国保加入者）でかつレセプト参照承諾が得られたもの

### \*入院診療（年間）の有無とその関連因子の抽出

Logistic regression Number of obs = 979

Log likelihood = -281.74664 Pseudo R2 = 0.1092

入院診療利用(=1)

	odds ratio	Std Err	z	p	lower 95CI	upper 95CI
年齢60代	0.872	0.269	-0.440	0.657	0.476	1.597
年齢70代	0.647	0.228	-1.240	0.216	0.324	1.290
女性	0.860	0.202	-0.640	0.519	0.542	1.362
都市5	0.648	0.190	-1.480	0.138	0.365	1.151
都市6	0.745	0.211	-1.040	0.298	0.428	1.296
自覚的健康不良	3.912	1.123	4.750	0.000	2.229	6.866
低世帯等価所得	0.939	0.223	-0.260	0.792	0.589	1.497
義務教育以下	0.762	0.188	-1.100	0.270	0.470	1.235
心臓病	2.063	0.545	2.740	0.006	1.229	3.463
高血圧	0.966	0.233	-0.140	0.887	0.602	1.551
高脂血症	0.714	0.250	-0.960	0.335	0.360	1.417
脳卒中	2.257	0.926	1.980	0.047	1.009	5.046
糖尿病	1.787	0.535	1.940	0.053	0.993	3.214
慢性腰痛	2.772	1.182	2.390	0.017	1.202	6.392
白内障	0.925	0.283	-0.260	0.798	0.508	1.684
関節疾患	1.200	0.460	0.470	0.635	0.566	2.544

入院診療実績があるもの (N=85) での年間入院診療費の属性別比較

都市	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
4	26	1170799	1296766	878805
5	34	632698	818374	204470
6	25	912443	1536186	282070

年齢性別	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
50代男性	7	2143470	2368380	1540860
50代女性	5	381598	322380	230190
60代男性	21	705934	641766	509610
60代女性	23	901120	1108895	424700
70代男性	23	777980	1293626	199780
70代女性	6	734560	1046540	366395

自覚的健康	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
よい	20	664566	764988	366580
わるい	65	945727	1327324	352790

給付率	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
7	52	766696	988861	402935
9	31	951116	1366001	342860

世帯等価所得	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
中央値以上	26	917480	1410403	228080
中央値未満	48	746859	964611	366980

学歴	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
高卒未満	37	863121	1255027	381170
高卒以上	48	892252	1206026	347825

心臓病	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
なし	62	849378	1230402	342750
あり	23	960963	1215925	479860

高血圧	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
なし	54	839825	1232870	322385
あり	31	948807	1215048	389930

高脂血症	N	年間入院診療費		
		平均	SD	中央値
なし	75	865571	1228166	381170
あり	10	984577	1217305	214985